京城新聞

婦人養生の勸め（一）

京城婦人病院長 ドクトル、メヂチーネ 工藤武城講話

此篇は婦人の固有の病氣と、妊娠、分娩の時の心得を極簡單に話すのであつて、婦人病と難產とは婦人科専門に治療して貰ふのは勿論であつて、素人療治や賣藥などで決して治す可きものでない、此篇の目的は婦人が病氣に罹らぬ樣平素の養生法、妊娠中分娩、產褥中の心得と、若し病氣に罹つたならば耻かしいなど野蠻な考への爲めに大切の生命を失はぬ樣速かに専門醫に治療を受けしむる目的である。

第一、婦人の生殖器、

陰毛のある所が陰阜、其下に陰核が突出して居る、直其下の方に前庭と云ふ平たい場所があつて、其中央に尿道口がある、最後に膣がある、以上の三つは陰唇から覆はれる内の方で膜の樣なのが小陰唇、外にあるのが、大陰唇と云ふ、膣の後端を陰唇繫帶夫れから肛門までが會陰。

以上の陰阜、陰核、前庭、膣、陰唇、陰唇繫帶、會陰、此れに乳房を加へて外陰部と云ふ。

内陰部は總て骨盤内にありて膣に此を覆ふて居る處女膜（此は未婚婦に限る）、膣腔深は三寸五分、其奥に子宮の口がある、子宮は長さ二寸五分、中央に小さな腔が有つて其一番奥は兩側に分れて二本の管となる。此れを輸卵管と云つて、其端にある卵巣と云ふ所に出來た卵を毎月一回此管によつて子宮に送るのである。

右の關係は兩足を揃へ兩手を擴げ掌を下に向けて眞直に立つた人間の姿に例へるぞ、足蹠は外陰部、兩脚の間が膣、軀幹が子宮兩手が輸卵管、手掌が卵巣と想像することが出來る。子宮の前には尿道を傳つて尿道口に開口する膀胱があり、子宮の後には腸の端で肛門に通ずる直腸がある。

第二、月經（さわり、月のもの めぐり）

月經は十五歲頃から始つて四十五歲に終る二十八日位に一回宛三日から一週計り續く子宮からの出血である。其分量平均一合、月經が息む年頃には生殖器は次第に萎縮する。

發育不完全の爲めに一生涯月經の無い婦人があり、妊娠、產後に月經が無いのは普通であるが、夫れで無く貧血、結核、胃病、腎臓炎、白血病、糖尿病、惡液質、其他大病の後に一時月經が止まる事がある、又精神感動の爲めに無月經になるのもある。月に一回づゝ月經は無くて鼻、肺、胃腸から出血するのもある、此れを醫者は代償月經と名くる。

此れに反して月經が非常に多い場合がある此れも種々の病氣で來るが此内には恐る可き子宮病なども素人には混せらる。

月經前後に搔痒、精神鬱結、食慾欠乏、鼓腸、頭痛、尿意頻數、腹部腰部の疼痛、心悸亢進、頭痛、眩暈、痙攣等を起す婦人は中々に多い。又月經時に限り皮膚に水疱、紅斑の出來る人もある。

右は子宮の卵巣の病氣から起る、専門醫に診察して貰つて早く癒さねば取かへしのつかぬ事になる。

（五十一） 河合柳葉

御室爲雅と大山豐春は、久振で野外へ散策して伏見稲荷へ詣で、其の歸るさに山城館と云ふ料理店に入つて、日中の暑さを避けながら晝食の準備を命じた。

御室侯爵と知るべくもあらぬ山城館では、其風采を見て左に右、上流の紳士として樓上の風通しの宜い最上等の室に案內した。

遙か隔てゝ稲荷の森を右に望み、前には眼界一帶に青田を眺めながら、

「近頃久しく室外の散步を怠けて居つたが、斯うしてブラ／＼と步いて見ると、猶且氣分が淸々しくなるやうだ、どうしても運動は爲んけりやならない。」

爲雅が云へば大山も、

「手前のやうな健康体の者でございましても、運動致しますると、非常に元氣が宜くなるやうに存じますから、御前のお体でございますると、忽に效驗が見はれますでございませう。

「手前の氣の故かも存じませんが、君子樣がお越しになつてから、御病氣も大層お宜しいやうに存じますが、左樣なお心地は致しませんでございますか。」

「うむ、然う申せば、予も然う云ふ感じが致する、茲十日ばかりと云ふものは、殆んど病氣は忘れて了つた。」

「何しろ此處たいものでございます、此の御樣子でございますると、二ケ月も御滯在遊ばさんでも必然御全快遊ばさる事と考へます、其れ是れに拘らず、君子樣の御身の上を御歸京前に豫じめ御屋敷へ内通爲て置きませんでは、あまり突然でも却つて左や右と面倒が湧いて出ぬ爲んかと愚考致しまするが、如何なものでございませう。」

爲雅は葉卷を燻らしつゝ、

「うさね、私も其事は思はんぢやないが、あまり早くから知らせると、却つて種々な故障が起り易いものだから、寧ろ歸る間際になつて突然知らせた方が宜からうと思ふのだ。」

「御意にございます、致しますると大凡御歸京が極りましてから通知する事に致しま

談話央へ、女中は新鮮の肴と氷に冷したビールを運んで、杯洗に浸したコップを取上げて、泡立つまでビールを注いで進めた。

侯爵は、グッと飲むで下に措き、眼を外の方に移し、

「どうだ、外は隨分暑さうだね、マア寛り休むで少し日が鈍くなつてから歸ると爲やう。」

大山もコップを手にして

「只今が丁度日盛でございますから、なか／＼外は嚴しうございます、御寛り遊ばして片日蔭になつた頃からお歸り遊ばす方が宜しうございます。」

侯爵は、傍に女中の侍つて居るも頓着せず

「しかし豐春、お前は君子を何んと思ふか知らんが、有難に宗匠の妹だけあつて、下樣で育つたとしては、行儀作法も心得てるね。」

「どう致しまして、行儀作法はからちやございません、お若いのに萬事に同情がございまして感心な方でございます、失禮な事を申上げるやうでございますが、殿へ御令夫人をお迎へ遊ばしても、君子樣以上のお方は鮮櫛稀と存じます。」

「では、モウ奥は貰はん事に致さうよ、、、。」

かくて主從は四方八方の物語に時を移して、やゝ日が傾いた頃歸路に就いた。

▲無料紹介欄▼

人事部

●新聞社の校正係又は外交員を望む年三十五元新聞記者且つ新聞事業に經驗ある者 姓名在社（五八）

●求婚 本年二十八月收八十圓血正体健十八九の良家の淑女と結婚したし 氏名在社（六七）

●弟子入用 但し十四五歲のもの 氏名在社（六八）

●求婚 年廿六血統正係累無月收五十圓容姿不問廿歲前後体健血正の女子と結婚したし 氏名在社（七〇）

京城又は附近にて豆粕の製造所又は販賣所あらば御知らせを乞ふ 氏名在社（七一）

●被雇度 朝九時より午後三時迄の間雇はれたし給金不望年十九保證人あり 氏名在社（七二）

夜間自宅にて筆耕に從事す御依賴の方あらば御申越し次第參室の上委細承致すべし 姓名在社（七四）

仲居入用 年齡十七年より廿五六年者至急一名入用但料理店に心得の有る者なれば尚宜し 大和町二江戶善（七九）

熊本縣人 市下確氏の消息を知りたし ユヌ生（七七）

●年齡廿五歲（妻帶者）會社銀行等の小使に雇はれたし 姓名在社（八〇）

●十四五才の小僧入用 但身元引受人を要す 氏名在社（八三）

清語 夜間七時より九時迄教授す 南大門通南門湯側相生町一〇 清語速成學會（八五）

電話至急讓渡たし 姓名在社（八六）

小供入用 但十八以下 氏名在社（八七）

●雇れ度 年廿五歲にして普通教育あり体格極めて壯健何處にてもよし至急雇われたし 氏名在社（八八）

物件部

●從來開業中の歐米熱帶國の不得已に付醫療機械藥品及び患者付の儘にて至急讓渡したし 姓名在社（四七）

●貸間 本欄人事部に御答申すオントル一間疊貳枚敷餘り庭園尤雅にして閑靜詳細は御來談を乞ふ 永樂町佛國教會裏山田（六二）

古着道具買たし 本町七丁目一六號寶（六四）

●貸地 旭町一丁目の山の手にて風景絕佳の土地家屋附にて讓りたし御望みの御方は御來談を乞ふ 姓名在社（七〇）

一本町より明治町に入三軒目空地三十坪斗附の貸家あり 櫻井時計店（七八）

裁縫、刺繡、編物、造花、摘綿工、英語教授す和服仕立物御注文に應ず 大和町三丁目廿六番戶 古谷（八一）

貸地 龍山十五間道路南大門外四千坪御賃貸 本町 四ケ所洋物店電三二一番（八二）

●至極輕便なる方法にて貸金の相談に應ず但照會封書 黃金町競明館內渡邊（八四）

●望借家 六疊四疊半各一濕爽一間並押込炊事場付の家を借りたし 氏名在社（八九）

空地七十坪ヲンドル九間格安賣渡したし 氏名在社（九〇）

京城新聞

軍隊の威信

誤殺事件に就て

日本の軍隊は日本の花なり、規律嚴正敵人ど雖も抵抗せざれば秋毫も冒さず、血あり涙ありて物の哀れを知るは眞に大和武士の精粹なり、此優美の思想こそ日本軍隊の花なり、日淸日露の戰役に於ても能く此特質を發輝せり、殊に北淸事件の際列國軍隊と戰を共にしたるときに於て最も能く世界に知られたり、日本軍隊が唯だ戰鬪にのみ猛きのみならず其行動の嚴肅淸雅なるを以て列國の欽賞を博したるにあらずや、誰か此名譽ある日本軍隊の威信を傷けんとするや、帝國の發展は素より國民の奮鬪に依ると雖も、其花たる軍隊に負ふ所甚だ多し、滿韓との兩國は言を俟たず、近くは韓半島の保護統治に見るも駐剳軍なくんば何事も斷する能はず、勳位赫々たる伊藤公と雖も駐剳軍なかりせば能く今日の進境を開拓する能はず、帝國の威信は駐剳軍によりて行はる、咄何者か此功績ある軍隊の威信を毀けんとするぞ、

輓近最も奇怪なる韓人誤殺事件なる問題湧出して一時世の注目を惹きたり、其眞相を極むるに其事件の些々たるにも拘らず、何故に斯くも世の物議を起させ以て我軍隊の威信を毀けんとするに至りしや、元來韓國人の如き反覆常なく昨日歸順したるものが今日は亦暴徒となり、昨の良民は今の暴徒と云ふが如きは決して珍しからず、其間の識別は到底何人と雖も容易に爲し得るものに非ず、之が爲に其討伐に多少の混淆あるも餘儀なき事なり、實際韓國暴徒の如き混淆たる者を討伐するには勢ひ此事あるを免れず、之を以て軍隊を責むるが如きは甚だ酷にして亦無理たるなり、若し夫れ嚴密に探究したる上に非ざれば討伐すべからずとせば到底討伐は不可能たらん、譬へば敵中に僅少の戰鬪員外の者混じ居りたる迎攻擊を中止せば勝を制する能はず、討伐は一の戰鬪なり、到底戶籍調査をなすが如き細密なる探究をなし得るものに非ず、英國の印度に於ける佛のマダガスカルに於ける匪亂討伐に徴するも分明なり、一村に於て一人の匪徒を出せば一村擧て討伐せられたるに非ずや、其他波蘭土に於てトランスバール等に於ても匪徒鏖殺に就ては幾多の良民は犧牲にせられたらん、然れども之が爲に軍隊を責むるものなし、之れ軍隊が職責を盡すに於て勢ひ止む可らざる事なり、然るに今回の一小事件を以て誤殺云々と聲を大にして內部より騷ぎ立ち軍隊の威信に關する事も顧ざるに至りては余りに淺慮なり、自ら大政治家を以て任する伊藤公が眞先に動かされて煩惱せられたるが如きは唯呆るゝの外なし、日本唯一の味方と自稱せる李容九以下一進會員等が殊更に之を東京に於て問題となしたるが如き、李容九等の輩が日本人某々等の策士ありと聞くに至りては尙更に怪事と云はざるを得ず、外國宣敎師の如きも討伐最初に於ては兎角の批難も爲したれども、其眞相の分明なるに及ては却て日本軍隊を信賴するに至れり、暴徒が地方の平和を害する甚だしきを知りて今は速に討伐するの必要を認めたり、從て今回の誤殺事件の如きも渠等は之を批難せず却て至當と認め居ると云ふに非ずや、外國宣敎師にして然り、然るを內部より之を喧囂するとは何事ぞや、聞く處に依れば殺せられたる者に對して弔慰金として一人に就き千圓宛を贈ると云ふ、何たる特殊の恩惠ぞや、斯の如くにせざれば此事件は落着せざりし乎、恩惠も其度を過ぐれば却て害あり斯くては日本軍隊の威信に關せずや、日本の花たる軍隊の面目に關せずや、伊藤公の政策は常に宋襄の仁に流れて往々敵に糧を與へるが如き事あり、之が爲に自己の威信を損するのみならず、森嚴なる軍隊の威信を傷るに至る、伊藤公たるもの深く顧みて列國に笑はるゝが如き事をなす可らず、余輩は我軍隊の威信に就て當局者の反省を請はざるを得ず、

漢城便り

▲最近の御製あり

目に見えぬ神にむかひてはぢさるは
人の心の誠なりけり

誠なるかな誠なるかな誠心ありてこそ神を見ることを得るものに候

▲幕末の英傑榎本武揚子も寄る年波には打勝つべくも非ず遂に薨去相成申候右に付我海軍大臣は子爵の爲に公葬を營み候由禮に於て盡せるものと可申候梁川先生に對する評價は十人十色なれ共海軍公葬の一事に依つて自ずから評價の標準も明かと相成申候

▲聞く當年の榎本釜次郎が函館に據つて北海道總督否蝦夷共和國の大統領と稱し其雄心を天下に示すに當てや彼の陰險なる野心家ナポレオン三世は榎本を使嗾して京都に對抗せしめ自ら漁夫の利を占めんと策したりとの事に候

而かれども釜次郎は大和男子なり江戶兒なり遂にナポレオンの手に乘らず心機一轉恥を忍んで京都に降り國家分裂の殃を防ぎ申候

▲韓國の經濟を發達せしめんとせば先韓人の經濟的慾望を高からしめざるべからずとは至極尤の議論に有之候只疑問として每々妙答案を得ざるは如何にして半島民の富に對する慾望を昂むるかに有之候

▲吉林に於ける三井物産會社支店は其取扱ふべき商貨無きを以て今回引揚ぐることゝ相成たりとの事に候會て余輩が杞憂を抱きし如く若しも三井の引揚が彼の極端なる門戶開放機會均等に因せりとせばソレコソ一葉落ちて秋の來るを知るべき一大事に有之候日本政府の對滿經營今日に於て言ふに忍びざるもの多々有之候

東京電報

▲統監の歸任期

伊藤統監は來月中旬歸任することゝなりたり(廿八日發)

雜報

●副統監の天長節祝賀會

曾禰副統監は十一月三日天長節奉祝の爲め統監官邸に祝賀の園遊會を催され韓國各皇族元老各大臣軍司令官各國總領事各部次官日韓各高等官及居留民紳士令夫人新聞記者等千餘名に夫々招待狀を發せられたり

●理事廳の天長節奉祝

來る十一月三日の天長節には京城理事廳に於ては例年の通り午前九時[illegible]御眞影の拜賀式を擧行し同十時より十一時まで一般在留民の拜賀を許可され正午十二時より後庭に於て園遊會を開催さるゝ筈にて、昨日夫々招待狀を發せられたり其人員は百五十餘名の多きに達せりと

●仁川の天長節奉祝

來月三日例年の如く仁川の有志は天長節を奉祝すべく信夫淳平、富田耕司、田中佐七郎、穎原修一郎の四氏發起となり午後零時三十分より仁川俱樂部に於て一大祝賀會を開く筈なるが來會希望者は左の條件に從ひ申込む可しとなり

一、會費 一圓五十錢但し即納のこと
一、申込所 民團役所內發起人
一、申込期 十一月二日正午限り

●名譽社員章奉呈

韓國皇后皇太子には今回の總會に際し新に赤十字社名譽社員に推薦せられたるが皇太子には去千秋慶節の際東京御用邸に於いて統監より名譽社員章を奉呈せられたれば皇后には昨日曾禰副統監參內謁見の上奉呈せられたり

●赤十字社總會彙報

▲其後の篤志表彰者 韓國側にては已報の篤志者の外左の諸氏も式場に於て表彰せらるゝことゝなる可し

有功章授與 內閣總理大臣夫人 李氏
特別社員推薦 軍部大臣 李秉武氏
同 學部大臣 李載崐氏
同 李允用氏

▲救護演習豫講 赤十字救護員及警視廳員の重なる者は昨日午後總會場に參集し救護演習上の打合せを爲せし筈なるが總會前日多數會合し藤田軍醫部長指揮の下に救護演習の豫講をなす由なり

▲紀念章佩用 總會參列社員に配布する紀念品は此程總委員部に到達したるが頗る精巧美麗を極めたるピンツキ紀念品なるを以て參列社員は受付係より其交付を受け社員章と併佩し式場に列するの仕込なりと

▲秘苑拜觀者心得 總會翌日秘苑及景福宮を拜觀す可き社員は左の件々に付注意を要すと

一、秘苑拜觀は十一月一日午前十時より午後一時迄景福宮拜觀は同日午後一時より同四時迄
一、秘苑內にては一切喫烟を禁ずるは勿論兩宮內共樹木を折取る等本社員の体面に關する行爲あるべからざること

●韓皇后御令旨

今回の赤十字總會に際し韓國皇后より御令旨を賜はる趣洩れ承る

●松平子爵の着京

來る三十一日慶熙宮に於て擧行さるゝ赤十字社韓國委員部總會に總裁殿下の代理として臨場せらるゝ日本赤十字社本部理事松平子爵は本日午後八時三一時南大門着の列車にて着京せらるゝ筈なり

●赤十字總會參列汽車

日本赤十字社仁川支部社員にして昌德宮を拜觀せんとする者は來る三十一日午前七時五十五分仁川驛發列車又た總會式場に參列せんとする者は同日午前十一時五十五分同驛發列車に乘じ上京するが便宜なるべし何れにせよ赤十字徽章(略章にあらず)の佩用を忘れざるやう注意すべし

●東洋拓殖の重役

東洋拓殖副總裁選定のことに就ては前號に記せしが今別報に依れば東洋拓殖副總裁候補者として松崎藏之助、美濃部俊吉、吉原三郎三氏の外に某若手貴族院議員も現れ何れも政治、實業兩派の後援により內部は混沌たる狀態にあり、即ち松崎氏は最先の候補者にして桂首相の認むる適任者なりしも酒句常明、美濃部俊吉兩氏、薩閥若しくは曾禰副統監の關係より候補談に上り、中にも美濃部氏は一時頗る優勢なりき然るに元老中に吉原氏を最適任者として推擧するものあり自身は別に運動奔走せざる爲め形勢餘り振はずと雖も、是れまた勢力あると勿論なり、但し昨今の形勢にては松崎氏最も優り居るが如し、次に理事四名(內韓人一名)中本田幸助、嶺八郎兩氏は既に內定し居るも他一名に就ては、松崎氏若し副總裁たらば、美濃部氏を上席理事に任命せらるべしとの說眞に近きが如し、尙は同會社は拾一月拾日株式申込を了し、十二月十日頃迄に第一回拂込をなさしめ、同十五六日頃創立總會を開き、重役選擧をなす豫定也

●滿韓の兌換券整理

當局者につき聞く所によれば滿韓を通じて兌換券の流通額は昨今平均七百萬圓あり年末等には七八百萬圓に上り此外滿州地方に流通する銀券は三百萬圓にして戰時中發行したる軍票の尙回收せられざるもの約二百萬圓あり幣制の統一頗る困難なれば過般來之が統一上につき調査研究中なりと

●淸津の金融機關

咸鏡北道淸津は北韓良港の一にして本年四月開港以來益々繁盛に赴き貨物の輸出入人口の增加等より見るも將來の發展圖るべからざるものあり然るに同地には未だ一の金融機關の設備無く同地商工業者の不便云ふべからざるものあるのみならず爲めに同地の發達を阻害するを以て今回咸鏡農工銀行の出張所を同地に設置して一般の需用に應じ且つ金庫事務をも取扱ふ事とし度支部大臣の認可を經て目下開業準備中なりと云ふ

●手形條例追加に就て

十月十七日韓國官報によれば勅令第七十三號を以て現行手形條例追加の件左の如く裁可公布せられたり

光武十年勅令第七十一號手形條例第二十二條に左の一項を加ふ

前項の場合に所持人は償還せしむる者に對し滿期日又は其の後三日以內に償還請求の通知を發するを要す

右に付當局者に之が追加理由を訊せしに現行手形條例には裏書人が前者に對する償還請求の通知期間に付ては一定期日の規定あるも所持人が前者に對する償還請求の通知期間に付ては何等の規定なかりしを以て手形不渡の場合に所持人は第八條に規定せる消滅時效發生の期間即ち滿六ヶ月以內は何時にても償還請求をなすの權利を有する事となり手形上の利害關係人をして永く不安不定の地位に立たしむるのみならず如此は手形の經濟上及び法律上の特質を沒却するに至るべきを以て之が缺點を補はんがためなりと

●國朝寶鑑の改刻

宮內府は今回國朝寶鑑の改刻刊行を企て左の諸氏を校正官に任命せり

內閣總理大臣 李完用
宮內大臣 閔丙奭
奎章閣大提學 李容元
中樞院議長 金允植
從一品 金鶴柱

●水雷艇の入港

水雷艇鵲、隼、千鳥、眞鶴の四隻は一昨日午後一時三十分旅順方面より仁川へ入港碇泊せり其使命は固より確聞し得ざれど同地近海の海賊討伐のためにあらずして多分海軍演習參加中此地に分遣されたるものならん

●工兵大隊の會寧着

會寧駐屯工兵大隊は十月二十四日同地に到着せり

●仁川民會

既報の如く第二回仁川民會は昨日午後三時三十分より民團役所樓上にて開かれたるが前掲二箇の議案中最も辨論に花を咲かせたるは第七號議案仁川民團立仁川病院規則中改正の件なりし其他協議事項として斗量場に雨蓋を設くるの件小學校分校運動場取り擴げの件等ありしも其詳細は明紙を以て報導すべし

●議案配布に就て

仁川民團にては從來民會議案の配布を當日に於てする慣例なりしも斯くては議員の熟慮を俟つの餘裕なきを以て今回民團理事者と議長田中佐七郎氏との間に協議を遂げ便宜上遲くも民會當日の前日までに配布することに變更し昨日の第二回民會より之を採用するに至りたる由

●光濟號の鴨綠江航

目下仁川に碇泊中なる光濟號は來月七日頃鴨綠江方面に向ひ浮標引揚工事に着手する豫定なりと云ふ

●仁川水道電話

仁川水道工營所及び松林山水道工營所間に架設を急ぎつゝありし電話線は本日中に開通の筈なり

●第二小學校展覽會

京城第二小學校生徒製作品の展覽會は二十八日午前八時より父母兄の縱覽を許せしが續々來觀者あり殊に韓人の來觀者多數ありたりとて當局者は意外とせり尙二十九日も引續き縱覽を許すと云ふ

●鐵道青年會の講演會

廿四日土曜日午後七時同會主催の下に本多日本美以敎會監督及木原牧師の宗敎講演ありしが木原牧師は靈界の無政府なる題にて滔々現代の人心傾向の焦点を摘發し尤も切實に警醒し次に本多監督は聖書の適例を惹き昔時羅馬國民墮落の狀態及び當時の吏人の奢侈腐敗に耳慣かれ終に滅亡に陷りし事實を述べ現在韓國同胞の痼弊と戒め進んで世人が聖書を研究せん事を懇ろに勸められ多大の感動を與へし由當夜聽衆は八十名許なりしと

●若林總監の着京

若林警視總監は昨夜八時三十分南大門着列車にて着任せり

●神野書記官歸京

平壤義州地方の監獄視察のため出張中なりし神野法部書記官中橋同主事は視察を了へて一昨日歸京せり

●四元群山稅關長歸任

群山稅關の埋築問題及稅關事務打合せの爲め過日歸仁し仁川稅關に滯在中なりし四元群山稅關長は昨日午後一時仁川出帆の能登丸にて歸任せり

●田中屬の轉任

京城理事廳屬にして裁判事務の檢事代理たる田中永次郎氏は今回理事官に昇進し韓國某裁判所檢事に任せらるゝ筈にて其後任には司法專門の理事官來任すべしと云ふ

●辭令 廿八日附

任理事廳副理事官高等官六等 延原穰
淸津理事廳在勤

公人私人

▲堀江覺治氏(代議士)二十七日來京天眞樓に投宿せり

▲平賀義美氏(工學士)來京中の所二十七日出發歸朝の途に就けり

▲柴田虎太郎氏(鎭南浦農工銀行支配人)出京中の所二十七日歸任せり

投書

●小學校落成式

市隱生投

一昨日の第二尋高小學校落成式は盛大に擧行被致候內地に於ける小學校の落成式と云へば上々の主賓が郡長殿か郡視學か或は市長位の者にて市長殿にも滅多には臨席せられず候而かるに我京城の小學校には曾禰副統監石塚長官其他文武の大官等招きに應じて臨席したるは內地に於ては迚も思ひも及ばぬところに有之候ソレは扨置き當日に於て副統監が兒童に對して爲したる訓諭は追かに粹人なる西瀨先生人を見て法を說くの秘訣を知りたるものとして我等も納得致申候三浦理事官の[illegible]に就ての一言は今頃の家庭に育つ兒童等には是非共敎へて躾の必要有之候和田議長の祝辭は簡にして明熊谷民長の挨拶は落付きて主人たるに恥ざるところ慥かに有之候式の一部一部は寸分なかりしと云はゞ云へ式の全体に就ては开が餘りに形式に流れて兒童の頭腦に好印象を發すべき潑激たる精神の表現に大に欠くところありしは慥かに事實に有之候式も行儀も大抵にせざれば僞善と相成り寺も學校も取違へるは兒童の爲に決して宜敷事には無之候

近事片々

▲帝國の大陸經營に就て韓國保護統治及滿州經營の機關を變更するの必要なきや否

▲滿韓の經營に就ては是非共之を統一する機關の必要あり然らざれば發展甚だ遲々

▲或人曰く統監は滿韓の統監たるべし韓國は統監の指揮を受る理事官長にて足ると

▲極東平和の爲に帝國自衞の爲に韓國の保護も緊要なれど滿州の經營は更に緊要也

▲滿州にして他の侵迫を受くれば韓國の經營に支障を生ず是れ甚だ見易き道理なり

▲滿州にして帝國の勢力樹立せば韓半島の經營は區々たるのみ茲大に研究すべき也

▲要之統監府の進轉而して更に大陸經營の統監府たらしむるに有と此論大に理あり

▲單に韓國の統監たらずして大陸經營の統監たらしめよとは或は國民の輿論ならん

▲如斯して始て帝國本位也而て更に韓國の保護指導をなさば可なり何の煩あらんや

▲伊藤公の歸任は來月廿日頃也と斯くては任地に越年するの覺悟なる乎近來の珍也

▲何故に伊公の歸任は遲々たるや暗の如く內心深く辭任を期する爲なる乎甚疑はし

▲伊公の如く任地を空しくすれば外の者ならば怠慢の譏を免れず茲が公の豪き所乎

▲杓子定規の服務規律は可からざるも大政治家迚も官吏たる以上は制裁を要する也

▲上官自ら規律を守らざれば下流に及ぼす影響や甚だし須く相當の制裁を設く可し

▲農相趙重應神經衰弱の爲に夫人を伴ふて東萊の溫泉に靜養す神經衰弱の原因何乎

▲左夫人のみ具して右夫人は伴はざる乎左れば右夫人姑暫らくは大安心にてムらん

▲曩には李允用愛妾山月を伴ふて東萊に遊び今亦此大官夫妻行く東萊の溫泉繁昌也

▲若林新總監來らんとす新總監の手腕や如何韓國警務の活動進歩を見るに至らん乎

▲若林氏赤門出身の秀才なりと聞く松井茂氏と相並で韓國警務の刷新を見るべき也

▲榎本子爵の他界は惜むべし德川武士の傑物追々凋落す子爵は實に江戶ッ子の標本

▲七重濱は五稜郭に對すと歌て官軍に對峙したる雄心勃たる當年の釜次郎今やなし

▲相場界の奇傑たりし新宿將軍濱野茂失敗凋落新宿の邸を賣り亦妾宅も賣らんとす

[illegible]町の妾宅に張札す貸家に相成居候に付賣りたく候但し大に懸直ありと亦奇也



無情の夫（一）

世道廢れて人情紙の如く世はます〳〵澆季に陷り人はいよ〳〵輕佻に流るゝ現代に於て父子相反目し同胞相鬩ぎ信友相陷擠する聞くも忌はしき出來事は今更ら敢て珍とするに足らざるも爰に又多年世の浮艱辛を共にせし妻を離別せしのみならず可憐可愛の實子迄も放逐して路頭に迷はしめ而も自已は他の女の色香に迷ひて道樂三昧に身を持ち崩し恬として恥づる色もなき人非人の不德漢こそ憫しなくも記者の耳に入るにいたれり、記者は今左に筆を呵して此の不義不德血なき涙なき一塊物に向つて痛快なる鐵槌を下し併せて悲慘なる妻子の爲めに一片慰藉の辭を與へんと

サテも男といふは岡山縣は片田舍の生れにて千島二郎と稱し今年二十五の血氣盛りなるが韓國に渡りしは今より五年以前最初釜山に上陸し土地の菓子屋に下職として奉公せる中根が商事につけてすばしこき質なるより忽ちにして菓子製造のあらましを覺え且つ眞面目に働きし結果從つて主人の信用も厚く貯金も相當に出來し所から何れへなり朝鮮の田舍に赴きて菓子屋を始めんものと主人とも相談の上何程かの資本をもろして貰ひ豫て國元に殘し置きし女房のれツチ（三）を呼び寄せて大邱に來り世帶を持ちしは去る三十九年二月頃なりき、然るに同人は何と思案の變はりしものか店をば開かずに同地の北島とかいふ菓子屋に自分は職人ツチは下女として住み込みしが夫婦とも若いに似合はず丹誠ものにて朝も誰れより早くから起きて仕事に勵み夜も遲く迄夜業するといふ感心な心掛けに主人も大分信用し終には幾多の雇人仲の模範となり世人よりも珍らしい若夫婦と賞めそやされしが軈て二郎夫婦は僅か二ヶ月許りの間に三十圓といふ金を貯へけるより二郎は一ツ此を資本のタシとして望み通り店を開かんものをと思ひ欲しがる主人の許を無理に暇を取りて京城に上り北米倉町のさるオンドルを借り受けて細さかなる店を始めしが自分は毎朝早くより南大門の朝市に出で歸つてからは菓子製造を爲し又ツチも東大門外に露店を出し一日とても怠ることとて無く專ら商賣大事と丹誠せし結果僅か年經つか經たぬ中に三百圓許りの金を貯へ今は奉公人の二人も使ふ身となり夫婦の間も仲睦まじく何不自由なく暮し居る中ツチは豫てより姙娠の氣味なりしが日を積み月を重ぬるにつれて身も漸く重なり行き終に其の年の八月といふに月滿ちて女の兒をば產み落したり

●討賊彙報

全羅南道靈巖附近包圍掃蕩のため南下せし淳昌部隊の中尉以下十名は十月十四日靈田場東南約半里に於て約十五の賊と衝突し其五を殪し尙十五日夜長興の東四里にて賊十餘を討ち其九を殪す△長興郡內搜索中十月八日賊の狙擊を受け我補助員一負傷す△全羅南道靈光分遣所の憲兵一補助員二は測圖班を護衛し咸平郡佛甲山を行進中約百の賊と衝突し恰も憲兵下士以下六補助員六の應援を得て之を擊退し二を殪す△憲兵曹長の率ゆる搜索隊十月十七日羅州北方約四里にて約百三十の賊あるを知り當時咸平郡內搜索中の憲兵下士一韓國將校一補助員十五と合し之を夜襲し賊三を殪し銃五點を鹵獲す△黃海道海州守備隊の上等兵以下十名は舊守備隊の特務曹長以下三十名と協力し十月六日海州の東方約六里にて約四十の賊を討ち三を殪し二を捕へ銃十を鹵獲す

●新幕近況

新幕日韓民は殆と其堵に安し商業の繁榮日に月に盛大に赴き他方の評判甚高きを以て日韓人の移住し來るもの多し殊に此地は薪炭の集散地なるを以て冬期不景氣を呈することなく適當の商況を保ちつゝあり然れども森林法實施以來薪炭商側にては著しく打擊を蒙りたるを以て此地方商人の問題に上り各韓人部落よりは農商工部へ出願し森林拂下運動中なりと

●たみつの凄腕

爰仁川本町二丁目に高等御下宿金村屋と云ふがあり流石人樣相手の商賣柄だけ此家の娘のれミツさん却々馴れたもの客相手が上手で旅路疲れの客樣方も金村屋のミツさんにさへポンと肩を叩かるりやグイと疑入りにつくどいふ程而かもれミツさん今年廿歲の花盛り色が白くて標緻よし京城邊から來る二日三日宿りの客は大方金村屋へ宿するが常なりしが爰京城旭町四丁目に立野といふ受負師あり商用上仁川に行く事も毎々なるが行けば屹度金村屋へ宿れば屹度れミツにウンと目尻を下げそれ土產だの芝居見物だのと金費いの奇麗な處より此の男ならと早くも見てとつたれミツさんは腹黑くも奴さんを一つたらして金を捲き上げ呉れんものと去る十九日の夜も早や更けて寺の鐘ならゴーンと鳴り渡る時分前日より宿り居れる立野の室へ忍び入り優しく枕邊に寄り添ひて搖り起し言ふ事には子ー立野さん妾しも最早廿年といふ年頃なれば何處か好い嫁の口は有りますまいか此れが一生の願望と賴み入りてツツと襦袢の袖で眼に唾をつけ泣く眞似せしが軈て男はオ、誰かと思やれミツさんまだ年若きそなさんにそんな浮き苦勞をさせるとは親の傳八さんは兎も角見て居る私しが氣の毒でたまらず先づ〳〵私しの言ふ事も聞いてれ呉れ實は私も女房持ちたさ貰ひたさの最中なれば願つたり叶つたりと蒲團の中からソッと温い手を出しれミツの手を取り引き込めば床に入り二つの枕を並べタラシ文句を並べ立てゝ揚句の果ては愈明日京城さして駈落ちせんと堅び約束石山寺の鐘の合圖ぢやなけれども明る廿日の一番滊車で仁川を後に京城さして男の家に落ちつきたりしが望み通り二百圓許りの金をセシめたるより宜い鹽梅の處で切り上げんと男の家を飛び出し明治町一丁目の破落漢梶尾といふ小意氣な男と契を結び今に意茶つき居るとかいふ

商店覗き

▲和田貿易店▼

單に和田貿易店といへば一個平々凡々たる商店の如く聞ゆれど一朝主人の名を擔ぎ出せば何うやら暖簾に貫目が附き名聲信用又是れ平々凡々たる商店にあらざるを思はしむ而して貿易商として京城は勿論恐らく韓國中での巨擘といふべく信用確實取引敏捷流石は主人其の儘の商風を表現し居れり主人公は和田名は常一人となり沈着にして寡言而も居常公共の心に富る從來居留地の爲め貢獻する所鮮少にあらざるなり昨今は日本人商業會議所議員並びに居留民團議員の公職を帶び而も幾多の議員中硬骨卒直の資を以て鳴り毎時議長の重任を負ひ居れり蓋し商才士魂の典型店運日に〳〵繁榮に赴く亦偶然にあらざる也

▲梶原商店▼

有數なる貿易商なり殊に明太魚の取り引きは盛なるものにて殆んど同店の主品ともいふべし牛皮石油等の取り引き亦盛大店前常に顧客の絕わたることなし主人は梶原末太郎氏年未だ半白に滿たず元氣潑溂勢力旺盛二六時中業を勵んで倦色なく而も尙は綽々として餘裕あるもの流石は成効の人として將に後進者の龜鑑として恥づる所なし每期の民團議員改選に際して當撰せざるはなく過般の改撰期に當りても居留民の信望を負ひ大多數を以て當撰せり場所は本町五丁目三十八番戶電話は三百六十七番なり

▲秋吉金物店▼

商賈柄店の構へは至つてジミにして主人其のまゝの氣風を店の隅々に迄現はし居れり地盤は堅牢信用は博大金物商としてはマツ京城中での頭株なるべし主人は當代の富豪中村再造氏の實弟にして名を富太郞と稱し白髮白髯の老紳商介兒よりはヅットフケて見ゆるとは一般の言ふ所なり名望聲譽共に居留民の間に高く專ら居留地の爲めに力を注ぐ熱誠は居留民の常に多とする所なり過般民團議員の總選擧に際し革新派の旗頭として堂々の陣勢を張り終に最大多數の得票を以て當撰せるに徵しても亦其の手腕の凡ならざるを見るに足るべし其の他公私の職としては日本人商業會議所議員及び消防の組頭を勸め居れり

●百六拾五圓の金側時計

いよ〳〵冬仕度の季となつたので各商店は割引やら景品附の賣出にて市中は非常に賑かなるが中にも本町三丁目池田商店にては新流行の冬物到着せしを以て移轉披露をかね先日來景品附の賣出中にて非常の好況なるが景品は總額二千圓にて一等百六拾五圓の金側時計二等婦人持金側時計金鎖付などにて其外一本も空籤なく買物高二圓毎に景品券一枚を呈し抽籤期は十一月廿九日各新聞社員立會の上最も公平に行ふよし

巷のいろ〳〵

▲掏摸嫌疑　熊本縣熊本市檜物屋町一番地櫻井新一（三十）といふ男は南大門外紅葉旅館に止宿中なるが掏摸の嫌疑者として一昨日北部警察署に拘留されたり

▲正直チゲ　南部會洞五十八統十七戶朴聖鉉（四十）は一昨日龍山鐵道官舍居住熊井吉淸の荷物を南山町より南大門停車場まで運搬を托され吉淸と同道して同所に至る途中吉淸を見失ひたれば如何ともし難く其筋に出頭し荷物の取扱方を届出たるを以て其荷物は少時にして吉淸の手に渡されたりと正直なるチゲなり

▲亂暴ヨボ　南部美洞五統二戶韓永春方妾永王（三十）は小公洞李乘式より數日前三十圓の金圓を借り居たるが一昨日午後十一時貸主たる乘式が其返却方の催促をなさんと永春方に赴きたるに永春は理不盡にも乘式を毆打したるを以て其筋へ引致さる

▲科料一束　大和町一丁目百五十七番戶飲料品販賣業大西源吉郎（三十）は自宅前に樽數個を放置し通行の妨害をなしたる廉にて三十錢、旭町一丁目山口縣平民大倉長藏（五十）は九月二十九日福井縣平民三田村キクを明治町一丁目料理店彌吉マキ方に十月十四日佐賀縣平民中島マツを本町一丁目飲食店長谷川淸一方の酌婦に無免許にて周旋したる廉により五十錢、本町一丁目三十二番戶人力車宿別府爲五郎（五十）は本年六月に兵庫縣平民山田久松を人力車夫に雇入れ其筋の免許を受けざりし廉により一圓五十錢の何れも科料に處せられたり

（平民）（文庫）

▲東京の讀賣新聞は一ケ月幾程ですか（旭町一丁目遠藤）▲三十七錢です（係り）▲南大門が立派になつたのは結構だが早く砂利を埋めて下さい（生徒）▲鍛冶屋の烟突は總て高くして貰ひたいな（長谷川町住人）▲長谷川町から米倉町太平町あたりの有志が集つて大安同志會を設た我々は將來嘸ぞ何に與れさないゝ利便を得るだらう（錢橋）▲理事廳の事務所の方に使はれて居る給仕生意氣な振舞ひをすると飯の喰ひツパグリをさせるぞ（人民）▲團子取りが無くなつた我々はヤツと安心しました是れと申すも警察と新聞社のれ蔭です（組員の一人）▲寒は來れり然れども吁々然れども（薄命生）▲一番京城の新聞社員の方々が發起となりて青年同志會を拵へては何うですか漢城の天地に必ず一片の活氣を呈するだらうと思ふ（新進の青年）▲泥峴街中少し引き込んだ路次に共同便所を設けては如何敢て其の筋に申告す（十二脂腸）△糞あり蓋なしの札を掲げて居る國は世界中にはあるまい流石は朝鮮だ（睦人）

同可娛欄（二十）

●狂歌　（本紙登載廣告）　魚友痴史

▲煉炭。神田組
燃て居て烟りは更に知れん炭而も火力はさかん田組よ

▲石炭。林田
人々がもてはやし田の石炭は直だんも廉價く品も上等

▲塊炭。山邊
德用と謂ふので人がつかい炭早朝から客が山邊の店舖

●天氣豫報（自廿八日午後六時至廿九日午後六時）

北又は西の風曇後晴

廿八日午前六時各地氣象概況

高氣壓は黃海にありて北又西吹き東沿岸曇天の外は晴天にして內陸地方は氣溫十度以上低落せり



落語

一ツ穴 (十二)

妻「雖名を云はなくつちやア成らないんですか妾は大津屋半兵衛の家内です」と云はれた時は流石の御妾さん

妾「ハッ……」

と跡へ退つた機會にズル〳〵と奥へ這入つて檀那の枕許へピタリと座つちまうと女ざ云ふものは生地の無いものでげして何んにも云へない云ひたいけれども口籠つて涙ぐんで來る口はモゴ〳〵爲るが鼻が詰つて震つて胸へ動氣が來て氣が遠く成ります雖て氣を取直して檀那の肩を揺動り乍ら

妾「檀那樣……オ、御起き遊ばせ……モシ……ダ檀那樣ア……」

半「ア、ア……(欠び)……水を一杯與んな……ヲヽ寒い〳〵……(目を見開き)オヤ……是れは恐れ入つた……何う爲て此處へ來た能く知れたなア……」

妻「妾より貴郎何う爲て此處へ御出で被爲ました家を御出掛けに成る時は本所の川田さんへ御出掛に成るれ積り……妙な處に川田さんか……貴郎何う爲て此處へ御出で被爲ました(泣聲)」

半「エヘン……エヘン……飛んだ事です……夫りやア何うもマア……其何んなんだ……斯う云ふ其處なんだ……ナニが……ソノ……」

妻「何う云ふ理由なんです」

半「ソノ……川田さんへ往たんでグス往た處が川田さんの被仰るには……何うも……だから……何んなんだマア少し……譯なんだから……貰ひたいと斯う云ふ譯でグスから……左樣だグスかと云ふんで……何がソノー何んなんだ」

妻「何番しで分りませんねへ」

半「川田さんの何んなんでグス……」

妻「何んなのでございます」

半「川田さんの外妾なんで御妾宅なんでグス……」

妻「川田さんの御妾宅で……其處で……」

半「川田さんの云ふには那方で話しを爲るから那方へ往てろ……とマア云ふやうな譯なんで……」

妻「ハア左樣でございますか大きに失禮を致しました川田さんは何う遊ばしました」

半「御屋敷から急の用事で迎ひに來たから少し待つて呉れろと云んで……」

妻「然うですか夫れで分りましたが川田さんの外妾の家に御出で被爲て御寢みに成て濟みますか」

半「エヘン……エヘン……ソノー寢たと云ふ理由ぢやア無いんです此御婦人が急に癪が起つたてへもんですから夫を押て進げたんで」

妻「然う……貴郎の御力量で押て進げたら嘸れ癪も治りませう……けれども檀那樣た癪を押すのにれ枕二つは入りますまい」

半「其何んです私も一ツ……で宜からうと云つたのだけれども癪が強いから轉つた時の掛替の枕……」

●新聞料 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金卅五錢 ▲三ヶ月前金壹圓 ▲六ヶ月前金貳圓 ▲郵稅一ヶ月拾錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢 ▲廣告五號活字十九字詰一行金……十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城新聞社 京城西署西小門 電話六六三